

番組審議会

第687回

2024年11月18日

- 審議会の構成
- | | |
|-------|-----------------|
| 出席委員数 | 10名 |
| 委員長 | 音 好 宏 |
| 副委員長 | 江 澤 佐知子 |
| 委員 | 尾 縣 貢 萱 野 稔 人 |
| | 喜田村 洋 一 田 中 東 子 |
| | 洞 口 依 子 長 嶋 有 |
| | 水無田 気 流 目加田 説 子 |

TBSテレビ 龍 宝 社 長
合 田 専 務
瀬戸口 取締役
三 城 コンテンツ戦略局長
平 田 コンテンツ制作局長
小 林 バラエティ制作二部長
松 原 バラエティ制作二部プロデューサー
藤 田 編成考査局長
浜 崎 カスタマーサクセス室長
満 田 番組審議会事務局長

■ 議事概要

1. 審議事項

(1) 「それSnow Manにやらせて下さい」

10月11日(金) 18:30~21:10放送

(2) その他

2. 報告事項

(1) ミスゼロキャンペーンについて

3. 事務局報告事項

(1) 視聴者からの声

(2) 次回審議会の議題及び日程

【審議番組について】（「それSnow Manにやらせて下さい」

10月11日放送分）

Snow Manメンバーが“何事にも全力でチャレンジする”ドキュメントバラエティ番組。Snow Manがデビューした2020年、初の冠番組として特番で誕生。その後配信、日曜午後の地上波レギュラー放送を経て、2023年4月ゴールデンタイムに進出。Snow Manメンバー全員が唯一揃うレギュラーバラエティ。

審議対象回は「ダンスノ完コピレボリューション」第8弾。誰もが知っている曲の振付を3分で覚え、間違えずに披露＝“完コピできるか”を競うダンス企画。この回ではSnow Man同士の初対決が実現、バラエティ豊かなキャストも集結し個性溢れるダンスを披露。親子で楽しめる内容を目指して作成した。

【委員の主な意見】

- ダンスを完全にコピーできるかを競うシンプルかつわかりやすい内容。テレビの前で振付を真似しながら一緒に楽しむ視聴者の姿が想像できた。
- ダンスの止めやシンクロのポイントが画面に出てきて、ゲームをリアルな人間でやっているようで面白い。ダンスに興味がない人でもゲーム感覚で見ってしまうのでは。
- ダンスがうまいことだけがよいのではない、きちんとコピーすることで評価を得るという形は、ダンスの多様な見せ方でとても面白いと思った。
- ダンスをコピーしてSNSにアップするという一つのコミュニケーション文化、ダンス文化があるが、それをSnow Manや一流ダンサーがやってい

るところに面白さがあった。

- 3分でこんなことを覚えられるのか、基礎があるからできるというのはわかるが、3分でどんなことをやっているのかももう少し見てみたかった。
- 「3分間の練習」がテレビ的に地味だからか、スタジオに戻してトークしている。そのせいで3分で簡単にコピーできているように見えるのはもったいない。苦労する姿を見せる方がより完コピの面白さが出るのかなとも思った。
- この番組を見てダンス教室に行き始める子どもが多いと聞いている。若い世代にとってはダンスが当たり前になっていて、そういう意味で時代に応じた番組になっていたと思う。
- 男性の出演者が目立つ中で、女性ゲスト、子どもたちも頑張っていた。キンタロー。さんがしっかり芸人としてダンスや小ネタを挟んでくる瞬間を見るたび、思わず笑ってしまった。
- お手本ダンサーの衣装がよい。きちんと感があって、腕や足の動きが綺麗に見える。過度なセクシャライズが避けられ黒子感があるという意味で、非常によく考えられていると感心した。
- お手本ダンサーが女性だけなのはなぜか。Snow Manが男性9人のため出演者が男性に偏ってしまうことへの配慮かなと思ったが、お手本ダンサーに男性がいてもいいのでは。
- 少々時間が長かった。通常1時間の番組を2時間40分のスペシャルとして放映、若干間延びした気がした。
- ダンスは世代によって満足度のギャップが大きいジャンル。Snow Manやダンスのファン以外の人をどれだけのめり込ませるか。長さを感じさせ

ないために、3分間練習の見せ方や審査員を変えてみるなどもっと型を崩してもよかった。

【局からの回答】

- ダンスはマニアックになりがちなところを、いかにゲーム性を持たせ、ダンスをやったことがない人も思わず見てしまうような作りができないか、「同じ曲でもダンスは人によってこんなに違うんだ」という“発見感”も楽しんで貰いたい、ということ意識して制作している。

- 2時間40分は長いという意見。郷ひろみさんに出て頂いたり、バリエーションを持たせたつもりだったが、足りなかったのかなど。今後新たな企画を考えるきっかけにもなったので、なるべく飽きさせないようにやっていきたい。